

福生市町会長協議会 会報

ちいき

〈発行〉 福生市町会長協議会 会長 笹本 誠一

みなさんの力を地域に活かしませんか？



町会長協議会では、若い方にも地域に興味を持っていただき、一緒に地域を盛り上げていきたいという想いから、成人式で、町会・自治会を紹介するパンフレットを配布しました。



パンフレットには、町会で活躍している20・30歳代の方からいただいた話を「会員の方の声」として掲載しています。また、町会長協議会活性化部会の提案により、パンフレットに印鑑フォルダーを添付しました。

★新成人の方からは多くの喜びの声をいただきました。



紹介します 町会・自治会の 活動

▽町会・自治会って、
どんなことをしているの？

町会・自治会は地域にお住まい
の方で組織する、より住みよい地
域づくりを目指して活動している
自主的な団体です。

市内には33の町会・自治会があ
り、地域の人たちが、お互いに「支
えあい」ながら、まちに「うるおい」
や「にぎわい」をもたらすさまざま
な活動を行っています。

まねがし

- ・防犯パトロール、災害時に備えた
自主防災組織の運営、防災訓練な
ど地域の安全安心を図る活動
- ・挨拶運動、声かけ運動など子ども
たちの健全育成に取り組む活動
- ・資源回収、町内清掃、花いっぱい
運動など、まちを美しくする活動

にぎわい

・夏祭り、盆踊り、もちつき大会、
その他町会・自治会独自のイベン
トの開催

いねがし

・運動会、ラジオ体操、市民総合体
育大会への参加など地域住民の
健康づくりを進める活動
・敬老会、募金活動など福祉に関す
る活動

にぎわい

もちつき大会の にぎわい

本町中央町会 笹本 誠一

私達、本町中央町会は毎年1月
に本町第六町会と合同で、「もちつ
き大会」を行っています。

このもちつき大会は、2町会の
老若男女が一同に楽しめる場を作
ろうという事で始まりました。

30年程前から続いており、お年
寄りから子供まで楽しめる冬の大
きな行事となっています。

もちつき大会の準備をするのは



にぎわい

町会の行事

南町会

石川 恵一

勢の方々の楽しそうな声が響きわ
たりました。
本町中央町会も本六町会も共
に大きな町会ではないのですが、こ
れからもいろいろと協力しあって
楽しい有意義な町会行事を行って
いきたいと思っています。

両町会の青少年の役員と小・中学
校のPTAの方々です。前日まで
に買い物、豚汁やあんこを準備し、
当日も朝早くから、おもちをたく
さんついで、もてなしてくれま
す。

会場には、もちつきをする男の
人たちや、つきたてのおもちから
大福やきな粉もち、辛みもちなど
を作ってくれる女性の皆さん、豚
汁やおもちを食べながらビンゴゲ
ームを楽しむお年寄りや子供達
と世代をこえて、和気あいあいと
した楽しい一日です。

帰りには参加された皆さんがお
土産のおもちを持って、なごり惜し
そうに帰られます。会場である本
六会館の周りは寒い真冬の一日、大

勢の方々の楽しそうな声が響きわ
たりました。
本町中央町会も本六町会も共
に大きな町会ではないのですが、こ
れからもいろいろと協力しあって
楽しい有意義な町会行事を行って
いきたいと思っています。

南町会は、福生市のオアシスと
言われ、南公園、多摩川の清流を
眼下に、遙かには多摩連山に富士
山を望み、武蔵野の面影を今に残
す情緒豊かな地域です。

この恵まれた地に居住する約
160世帯で構成された自治組
織で、他の町会と比べて比較的狭
いことも特色です。

当町会では、5月から内出町会
と合同で、八雲神社祭礼の準備に
入り、7月の祭礼本番となります。

盛夏の中、曳き太鼓、子供神輿、
大人神輿が両町会で渡御(とぎよ)
を行います。また、各休憩所では美
酒も入り毎年おおいに盛り上がり
ます。夜には真福寺境内で納涼踊



りを行い、模擬店が出店し、祭りを盛り上げています。

年度末の3月には、当町会最大のイベントであります「ふれあい広場」を実施しております。

毎年、石川酒造(株)の駐車場をお借りして福生消防署熊川出張所、福生市消防団第一分団にご協力をいただき、地震体験(起震車による体験訓練)、初期消火訓練(消火器の使い方等)を行っております。それぞれの訓練で防災に関する技術や知識を習得し、自主防災の意識を高めています。

また、行事案内として昔懐かしい「ちんどん屋」が町内を回ります。

防災訓練終了後は青少年育成会南地区との合同懇親会を開催し、模擬店を出店してビンゴゲームを行いました。

この行事には毎年150名以上の方が参加しております。

当町会はこのような行事を行いながら、地域一体となり交流、親睦を深め、参加してよかったと言われるような、楽しく元気な町会を目指しています。

ねがわい

鍋二町会の 名物行事

「長寿を祝う会」

鍋ヶ谷戸第二町会

上村 喬

鍋二町会では、毎年11月に70歳以上の会員をお招きして「長寿を祝う会」を開催しています。

昨年で第24回を数える文字通りの長寿行事で、鍋二町会が誇る伝統の名物行事です。

70歳以上の会員お一人お一人に招待状を手渡ししているの、日頃、外出機会の少ないご高齢の方の身近な安否確認にもなり、また、



核家族化が進み、三世代間のふれあいが少なくなっている今日、「長寿を祝う会」を催す意義はますます大きくなっています。

当日は、地域の有志のご協力を得て、お祭り囃子の演奏、ウクレレ演奏、大正琴の演奏、日本舞踊、フラダンスなど多彩な催し物を披露、特に演奏に合わせて「ふるさと」「もみじ」などの小学唱歌を全員で合唱するときは、身震いするほどの感動を覚えます。その他、福引き、ビンゴゲームなどで歳を感じさせない歓声や笑い声で一杯です。

会が終わった後、名残惜しそうなご高齢の女性から

『会長さんよ。今日はとても楽しかったよ。みんなも喜んだんべえ。おれ(私)も90(歳)を超えたけどよ、来年、来れるかどうかもわかんねえけどよ、また、呼んでくれな。』

と熊川弁丸出しの言葉をかけていただきました。『もちろんですよ。来年も必ず、来て下さいね。約束ですよ。』、このような会話の積み重ねが、町会活動を支えて行くのだと確信しています。

広告掲載スペース

地域活動実践講座

自治会・町内会を考える

1月30日(金)に日本青年館(新宿区)で開催された地域活動実践講座(公益財団法人あしたの日本

を創る協会主催)に福生市町会長協議会から2名の会長が参加しました。講座の内容は、

①「自治会・町内会の抱える現代的な悩み」

講師 名和田是彦氏

(法政大学教授)

自治会・町内会が抱える大きな悩みは加入率の低下で、この問題は一部の地域だけでなく全国的にみられるとのことでした。もともと地域差があったのですが、今世紀に入ると、どの地域も一様に低下が進んでおり、加入率低下の新局面を迎えているそうです。

加入率の低下が起す問題としては、全員が会員であれば自治会・町内会の議決や規約が地域社会のルールになるが、会員が減少すると地域のルールにならなくなる

非会員への対応などがあがっていました。

低下の原因としては、世帯規模の縮小、一人暮らしの高齢者の増加、若年層の未加入などがあげられ、以前のように、町会・自治会に入るのが当たり前という「自動加入文化」が崩れているようです。

加入率向上の対策としては、即効性のあるものはないようで、地道な加入勧奨が必要ではないかとのことでした。

②「どうする?」

加入率、役員選出方法等

講師 井上晴彦氏

(横浜市都筑区ふれあいの丘連合自治会会長、高山自治会会長)

井上氏が会長を引き受けた高山自治会は、若い人が圧倒的に多いところでした。男性は仕事があるため、役員のほとんどが女性という状況。そこで、若い女性が主体の「輪番制役員構成」でも活動ができるように考え、たどり着いたの

が「実態に合わせた自治会運営」でした。現状で活動がしやすいように、規約を変えてきたそうです。何年か経つと、会長以外役員が一年で交代するという弱点が、「役員経験者が組織の3割を占める」という、大きな財産に変わったと話されたことが、とても印象に残りました。

そんな高山自治会でも、加入率低下の問題は起こっており、平成19年頃から加入の呼びかけが結果に結びつかなくなってきたそうです。

真剣に丁寧に自治会活動を進めることで加入率アップが実現できるのか、自治会・町内会はどのような組織形態にすることが望ましいのか、今後の検討課題として取り組んでいく時期に来ているのではないかとのことでした。



平成27年3月
編集委員長 清水 誠二
編集委員 春日 廣信
上野 雅弘
井梅 泰雄
石垣 幸嗣

西多摩地区自治会
町内会連合会長会

定例研修会

2月26日(木)に檜原村役場で西多摩地区自治会・町内会連合会長会主催の研修会が行われ、福生市町会長協議会からも5名の会長が参加しました。

研修会では岡崎昌之氏(法政大学現代福祉学部教授)による「地域社会を巡る新しい課題と地域リーダー」というテーマで講演が行われました。

人口減少が進む中、地域「協働」の必要性、高齢者資源の活用など、これからの地域リーダーに求められていることがわかりました。



研修会の様子